

広島アニメーション

だより

広島メディア芸術を発信する情報誌



広島市郷土資料館パネル展示チラシ(部分) ©2019 こうの史代・双葉社/「この世界の片隅に」製作委員会



「SAVE the CINEMA」署名を政府に届ける諏訪敦彦監督



Withコロナの撮影現場(「孤狼の血 LEVEL2」)

特集

今、これから コロナ禍での広島メディア芸術の

2020年はあらゆる業界が新型コロナに振り回された年でした。

特集「コロナ禍での広島メディア芸術の今、これから」では、この1年、広島でメディア芸術に関わる方がどんな思いでどんな対応をされてきたかを寄稿していただいて振り返り、「今」を残します。

そして、「これから」に向けて、希望を提供していけたらと考えています。

コロナ禍を経験して —— “映画体験” は日々を暮らすための必需品

広島フィルム・コミッション 西崎 智子

一年前、世界三大映画祭の一つベルリン国際映画祭で、広島フィルム・コミッション支援映画「風の電話」(監督:諏訪敦彦)、「irradiated」(監督:リティ・パン)が上映され、ともに受賞との嬉しいニュースが届いた。次はカンヌ国際映画祭での「朝が来る」(監督:河瀬直美)だ、と期待をふくらませたのもつかの間、急速なコロナ感染拡大によりベルリン以降通常どおり映画祭が開催されることはなくなってしまふ。国内でもイベントの中止、施設の閉館が相次ぎ、映画「この世界の(さらにつつもの)片隅に」(監督:片渕須直)で描かれた四季をテーマとした展示「すずさんの四季のくらしノート」を準備したものの、会場の広島市郷土資料館は開催翌日から休館に。春から初夏にかけて予定されていたメキシコ映画ははじめ海外からの撮影はすべてストップ。多数の支援映画の公開も映画館閉館により、延期・公開日未定となっていく。無力感に襲われていた。

そんな中、ミニシアターの窮状を救おうと、呼びかけ人となった広島出身の諏訪敦彦監督らが「Save the Cinema」プロジェクトをスタートさせた。広島フィルム・コミッションが広島の皆さんと支援した映画の9割は、広島が誇るミニシアター「八丁座」「サロンシネマ」「横川シネマ」なくしては観客に届いていない。多様な文化の必要性と支援を政府に訴える署名活動(最終署名: 91,659筆)、連携したクラウドファンディング(CF史

上最高額の3.3億円)など、このプロジェクトがコロナ禍で私たちにできること、すべきことを提示した意義は大きく、呼応した賛同の大きさにも勇気づけられた。

2020年は被爆75年。国内外から多くの撮影チームが来広し、ヒロシマがさまざまな視点で発信される機会となるはずだった。コロナ禍だから「残念だった」で済ますことはできない。とにかくできることを、と急ごしらえとなったが、自由に編集して使えるよう被爆証言を含む広島の素材映像を4Kで用意したところ、ブラジルのテレビニュースや、ジャーナリストがスペイン語字幕をつけてSNSで発信するなど、さまざまに活用いただくことができた。また、ドイツ、スイス、オーストリアの公共放送で、かつて支援したドキュメンタリーやアニメーション映画が被爆75年として特集放送された。これも、広島取材に向け真摯にリサーチを続けていたスタッフが、今できることを、と考えた結果ではなからうか。

そして、国内の映画撮影はいっせいに動き始めた。撮影チームと確認し合ったコロナ対策をロケ地に説明し、ロケバスに乗る人数を制限するなど、感染対策を徹底しようと手探りしながら準備がスタート。撮影時には、ロケ地の消毒やスタッフ・キャストの体温・体調・行動履歴の管理を行う衛生スタッフが常駐し、9月から広島では「孤狼の血 LEVEL2」

(監督:白石和彌)「ドライブ・マイ・カー」(監督:濱口竜介)「吟ずる者たち」(監督:油谷誠至)と3本の映画が途切れることなく撮影された。「お茶場(お茶やコーヒー、お菓子を各自がとれる場)の設置はしないでください」「紙コップの使用は不可です」「窓を開けてください」撮影現場で口うるさく言わせていただきながら3本ともに無事に撮影終了したときには、ほっとして力が抜けた。

11月には、広島国際映画祭をリアル開催することもできた。毎年20-30名もの海外ゲストをお迎えしているが、今年は参加が難しいため、コンペをとりやめるなど規模を縮小して準備を進めた。しかし、プログラム発表直前に、コロナの影響で急きょ上映不可となる作品が出始めた。なんとか開催に間に合ったが、来場者がいないのではとの不安もあった。しかし、来場者が映画やワークショップを楽しんでいるのを見て、準備してよかったと、映画はやはり求められているのだ、と強く感じた。

コロナ禍を経験して、映画は単なる娯楽ではなく、本当に日々の暮ら

しの中で必要だということを、そして、映画の力、映画館の力をより強く感じるようになった。広島フィルム・コミッションの活動は、映画が観客に届くまでのほんの一部分を担うにすぎないだろう。しかし、確実につなぎ、私たちの暮らしが少しでも豊かになればと願いながら“集える日常”を心待ちにしている。



「孤狼の血 LEVEL2」8月20日(金)全国公開 ©2021「孤狼の血 LEVEL2」製作委員会

コロナ禍で開催、第12回『食と農の映画祭2020 in ひろしま』に想う

シネマキャラバンVAG 友川千寿美

2009年にスタートし、“食”と“農”、“環境”をテーマにして毎年、広島市内の映画館を1週間借り切り行う『食と農の映画祭inひろしま』。12回目となる2020年は、コロナ禍の中で中止も止む無きかと悩んだ末、二日間のみ広島県立美術館・地下講堂を会場にしての規模縮小映画祭となった。会場の定員を50%にとどめ、換気、消毒、検温などの感染予防を徹底した上での開催だったが、ほぼ定員満席になる参加者で盛り上がるものとなった。

毎回その年のテーマを決めて、テーマに即した映画の上映を行っているが、上映する作品に関わるゲストを迎える楽しみもある。2020年は、映画祭で迎えたゲストの訃報が届いた辛い1年でもあった。2020年3月31日、コロナ感染が日本国内に広がっている最中に飛び込んできた佐々部清監督逝去の報。新作の準備をするため故郷・山口県下関市に滞在中での突然の知らせに映画祭実行委員のみなが声を失った。2019年に『種まく旅人 夢のつぎ木』という岡山県の桃栽培農家を描いた作品

でゲストトークをして頂いた折、「映画にしたい企画は、いつも4本から5本はある」と意欲满满だった佐々部監督。

第10回目の時に上映した『ごはん』で、慣れない農業に挑むヒロインに米作りの手ほどきをするベテラン農家のおやじ役、福本清三さん。時代劇で“5万回切られた男”として一躍名を馳せた名わき役の俳優である。『ごはん』の劇中でのセリフ「刃物の使い方はまかせなはれ」。2021年1月1日に旅立たれたが、今でも目の前に洗いお姿が浮かぶ。

八丁座がオープンした年の夏、コンサートとコラボした豪華な映画祭が実現した。ミュージカル女優、新妻聖子主演の映画『アンダンテ稲の旋律』と彼女のコンサートである。熱烈なファンが押し掛ける異色のプログラム。会場の隅に原作者、旭爪(ひのつめ)あかねさんの姿も。2020年11月8日、旭爪さんは4日後の誕生日を前に、53歳で逝かれた。

関わる方々が亡くなっても、映画は生き続ける。生きる活力を与えるために。



12月5日映画会受付



12月5日映画会場内風景



12月5日マルシェ



サニクリーン

きれいになりたい。あしたのために。

サニクリーンは「レンタル」「リサイクル」などのシステムをとおして、資源の有効活用を目指し、人としぜんにやさしいサービスと商品をお届けしています。

フリーダイヤル 0120-86-3290

ハロー サニクリーン

お家使いサービス、アストロコントロール用品、探検動植物図のレンタル及び販売、ユニフォームのレンタル及び販売、クリーンサービス事業(清掃)、カーリース、デジタサービス

「広島こわい映画祭」急遽オンライン開催へ、 コロナ禍を逆手に取り、参加者間の距離を縮めることに成功

広島こわい映画祭プロデューサー・県立広島大学教授 矢澤利弘

この映画祭は、2018年に始まった広い意味での「こわい」をテーマにした映像作品にフォーカスした映画祭です。当初は横川シネマでの劇場開催を予定していましたが、新型コロナの感染拡大により開催直前に延期を余儀なくされ、急遽2月4日から4日間に渡ってオンライン生配信で開催することになりました。

広島こわい映画祭は、県立広島大学の矢澤ゼミに所属する学生たちが資金を出し合い、企画と運営を手掛けています。開催方法をオンラインに切り替えた直後は、試行錯誤の連続でしたが、学生たちは持ち前のバイタリティで映画祭開催の危機を乗り越え、オンラインでこそ可能となった趣向を取り入れました。ロサンゼルス在住の映画監督、光武蔵人氏を審査員に迎え、コンペティションを実施したほか、ネットを通じて全国からの参加者を交えた質疑応答を行うなど、グローバルな交流を実現できたのです。また会員制の動画配信サービス「U-NEXT」と連携し、上映作品をオンデマンドで視聴することも可能となりました。結果として、コロナ禍は映画祭の可能性を広げてくれたようです。

★最新情報はTwitterで。ぜひフォローを。 https://twitter.com/hirokowa_movie



「広島こわい映画祭」メインビジュアル



グランプリ受賞作品「声」(串田壮史監督)

コスプレイベントの新しいカタチ

コスカレード 主催 カワサキマミ



人気アニメのコスプレ撮影(モデル:竹下ひかり)

新型コロナウイルスの影響で様々なイベントの中止や縮小が相次いでいますが、コスプレイベントについても例外ではありません。

コスプレイベントでは通常、イベンター側で更衣室を用意しています。しかし、更衣室内はギチギチの三密、かつ長時間メイクをするためマスクもできません。しかもドアや窓を開けると中が見えてしまいます。

そこで我々は更衣室を用いないコスプレイベントを2020年9月に実験的に開催しました。広島市森林公園を屋外イベント会場とし、衣装のまま車来場、または自家用車内での更衣を呼びかけました。海外と違いコスプレ姿での会場入りが良しとされない日本においては珍しい決断に至ったイベントだと思います。結果的にこの試みはコスプレイヤーに受け入れられ、コスプレ機会が失われているこの時期に屋外でのびと楽しんで良かったとの声を頂戴しました。

コスカレードでは今後もコロナ禍における新しいスタイルのイベント運営方法を模索していきます。

★最新情報はTwitterで。ぜひフォローを。 <https://twitter.com/cosquerade>

◆Pick Up!

文化をささえる 比治山大学 短期大学部美術科 映像・アニメーションコース 宮崎しずか研究室

比治山大学短期大学部 美術科 映像・アニメーションコース講師の宮崎しずか先生の研究室をご紹介します。アニメーションがご専門の宮崎先生は、2013年4月に同大学へ着任以来、教育と研究、そしてご自身の作品制作などに取り組まれています。さらに、広島市と同大学の間でメディア芸術の振興を目的として結ばれた連携協定(H25～)により、関連する様々なメディア芸術イベントへの参画や市立中学・高校でアニメーションを普及する活動などにも尽力されています。さらに最近では地元企業の株式会社サニクリーン中国、一般社団法人サニクリーンアカデミーと同大学の連携で幼児向けのアニメーションを研究室の学生と作成中とのことで、こちらも完成が楽しみです。

宮崎先生は、アニメーション制作の授業では学生の個性を引き出すことを重視し、学生自身の気づきを大切にされています。さらに地域とのコラボによって学生がアニメーションを制作する場合は、制作スケジュールの管理やクライアントへのプレゼンテーションなど、実践的な経験を学生の成長の糧とされています。広島のアニメーション文化を支える存在として、多方面に活動を続ける宮崎研究室の今後の活躍がますます楽しみです。



◆Event Information

●ひろしま映像ショーケース2021 ～広島発!インディーズムービー～

【日時】2021年3月20日(土・祝) 13:00～17:00(予定)
2021年3月21日(日) 14:00～17:00(予定)
【会場】広島市映像文化ライブラリー(広島市中区基町3-1)
【料金・定員】入場無料、84席
【内容】
・3月20日(土・祝) 自主制作グループドラマ作品
Quest Movie Factory(QMF)
広島を盛り上げる実行委員会
イチエンポッポフィルム(IPF)
市民活動で映画製作をする会
・3月21日(日) 学生作品
平和をテーマに中学生・高校生が制作したアニメーション
大学卒業制作作品
学生がテーマを選び取材して制作したドキュメンタリー
★詳しくは ⇒ <http://www.cf.city.hiroshima.jp/eizou/>

●コスカレードin広島市森林公園8

【日時】2021年4月4日(日)9:00～16:30(入園は16:00まで) 雨天決行
【会場】広島市森林公園(広島市東区福田町字藤ヶ丸173番地)
【料金】
・コスプレされる方:当日支払い制1000円
(小学生以下のお子様のコスプレ参加無料)
・カメラマン・見学の方:無料
※いずれも当日非接触検温および簡単な登録有
【内容】コスプレ撮影や交流を楽しむイベント
※衣装やカメラのレンタルはありません
【注意事項】
・更衣室なし(衣装のまま自家用車来場や車での着替えを推奨)
・中四国地方にお住まいの方のみ参加可能
・撮影時以外はマスクやフェイスガードの着用が必要
・普通車・軽自動車は駐車場料金別途必要(二輪は無料)
・衣装や小道具にガイドライン有。詳しくはWEBで
・コスプレイヤーの撮影・アップロードは双方同意の上で行ってください
★詳しくは ⇒ <https://cosquerade.jp/event-info/forest8/>



掲載しているイベントについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、入場時にマスク着用、アルコール消毒等を求められる場合があります。詳しくは各サイトをご覧ください。

◆Report & News

●どこまで調べる!? 片瀬須直監督次回作ワークショップ始動!!

昨年11月22日(日)、広島国際映画祭で「新しい道のり その第一歩」と題するワークショップが行われた。70数年前の広島・呉を生きる女性すずの日々を描いたアニメーション映画『この世界の片隅に』『この世界の(さらに行くつもの)片隅に』—ふたつの映画から広島・呉に住む私たちはこの町の大切なものに気付かされた—を創った片瀬須直監督が、次回作のリサーチ状況を話された。コロナ対策を行っての開催のため、席数半減、オンライン事前申込み制が取られた。事前申込みはアツという間に定員に達したそうだ。片瀬監督の作品制作に向けてのリサーチの凄さ・緻密さは、『この世界の片隅に』についてのワークショップやまちあるきイベント等によってよく知られている。今回も半端なものではなかった。緻密なリサーチは嘘のない物語が作られる確かな約束だ。その第一歩の報告の場として広島を選んでくださった監督に感謝したい。次回作は、清少納言など『枕草子』の登場人物を描く物語のようだ。『マイマイ新子と千年の魔法』に描かれた千年前の世界で、父の周防赴任に伴われて防府を訪れた諾子(なごこ)は、後に清少納言と呼ばれた。監督のこれまでの作品との繋がり、『この世界の片隅に』で観る者みなを今と地続きのような共感に巻き込んだ世界は、平安時代の話であっても間違いなく描かれるだろう。

広島新銘菓

生もみじ





にしき堂

比治山大学 比治山大学短期大学部

<p>現代文化学部</p> <p>言語文化学科 日本語文化コース 国際コミュニケーションコース マスコミュニケーション学科 社会臨床心理学科 子ども発達教育学科</p> <p>健康栄養学部</p> <p>管理栄養学科</p>	<p>短期大学部</p> <p>総合生活デザイン学科 幼児教育科 美術科</p>
--	---



かわらない心。
かわりゆく
時代の先へ。

グラフィックデザイン 日本画 マンガ・キャラクター



洋画



映像・アニメーション



工芸デザイン

比治山大学短期大学部 美術科

発行日: 2021年3月12日 発行部数: 5000部 発行: 広島市市民局文化スポーツ部文化振興課
編集: NPO法人広島アニメーションシティ(HAC)・谷口重徳・松浦妙子・カワサキマミ
レイアウトデザイン: カワサキマミ
題字デザイン: 岡川卓詩(広島国際学院大学情報デザイン学科)

【紙面についてのお問合せ】
NPO法人広島アニメーションシティ事務局
〒730-0011 広島市中区基町 21-3 中国放送会館内
<http://hac.or.jp/> Email : hac-jimu@hac.or.jp